

平成 27 年度 東京都内湾水生生物調査 12 月稚魚調査 速報

●実施状況

平成 27 年 12 月 10 日に稚魚調査を実施した。天気は曇りで、気温 10.4～12.4℃、北よりの風 0～1.5m で海は平穏だった。当日は中潮で、10 時 15 分干潮、15 時 46 分満潮(東京都港湾局のデータ)。魚は上げ潮に乗って来ることから、最干時から、上げ潮時をねらって調査した。各地点の概況を下表に示す。

各調査地点では、水温の低下に伴い魚類の数量が減少し、その他の生物として葛西人工渚を中心に多く獲られていたニホンイサザアミも少なかった。魚類稚魚に関しては、産卵期が秋季であるアユとキチヌの稚魚が、城南大橋および葛西人工渚にて確認された。

2015/10/14	城南大橋	葛西人工渚	お台場海浜公園
作業時刻	10 : 10～11 : 00	12 : 00～12 : 55	13 : 50～14 : 25
水温 (°C)	15.3	13.8	15.2
塩分	21.3	24.1	28.0
透視度 (cm)	100 以上	95	100 以上
DO (mg/L)	6.8	8.3	7.1
DO 飽和度 (%)	77	93	83
波浪 (m)	0.2	0.1 未満	0.1 未満
pH	7.3	7.7	7.8
水の臭気	カビ臭	弱カビ臭	弱カビ臭
備考	最干潮時でも潮位が高いため、干潟の干出がほとんど無かった。		

注) 塩分、DO、pH の値は計器測定値。

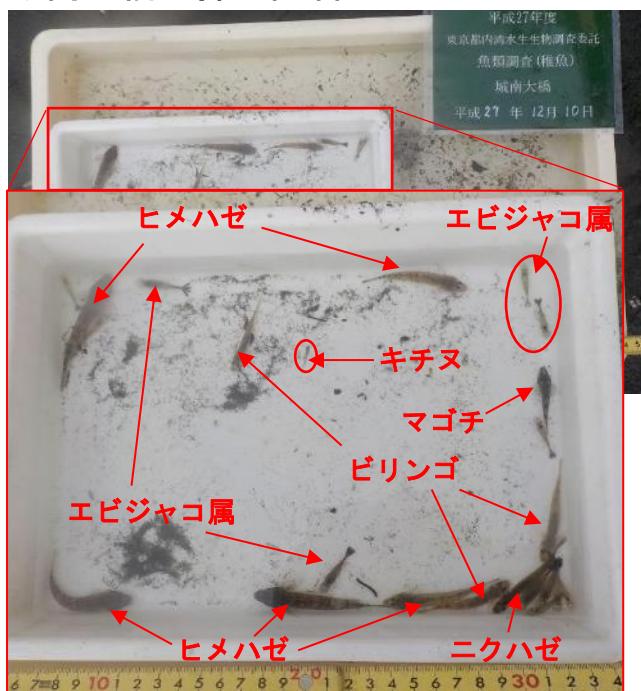
●主な出現種等(速報なので、種名等は未確定です)

主な出現種等	城南大橋	葛西人工渚	お台場海浜公園
魚種 (多い順 ^注)	ヒメハゼ (r)	ヒメハゼ (r)	ビリンゴ (+)
	アユ (r)	アユ (r)	チチブ属 (r)
	ビリンゴ (r)	エドハゼ (r)	
	ニクハゼ (r)	マゴチ (r)	
	キチヌ (r)	キチヌ (r)	
魚類以外	ニホンイサザアミ (G)	ニホンイサザアミ (G)	ニホンイサザアミ (m)
	エビジャコ属 (r)	シラタエビ (+)	シラタエビ (r)
備考			アカエイを目視にて確認した。

注) 表中の () 内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5～20 個体未満、r:5 個体未満

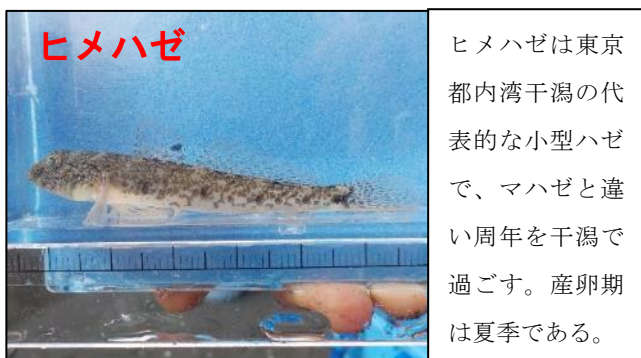
城南大橋 採取試料



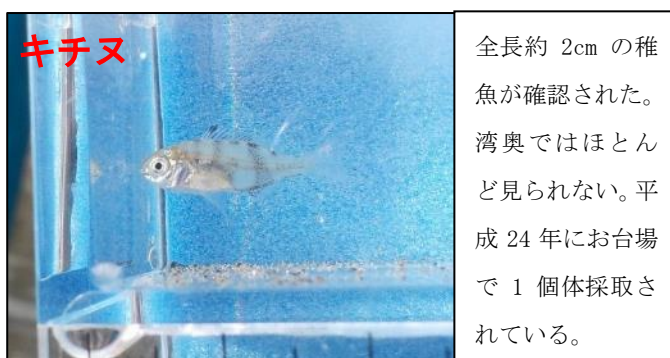
干潟の干出はほとんど無かったが、地曳網で捕獲された魚類は6種で、ヒメハゼ・ニクハゼ・ビリンゴ等の干潟のハゼ類の成魚、秋季に産卵期を迎えるキチヌ・アユ等が確認された。その他の生物としては、ニホンイサザアミのほか、エビジャコ属、アキアミ等が確認された。



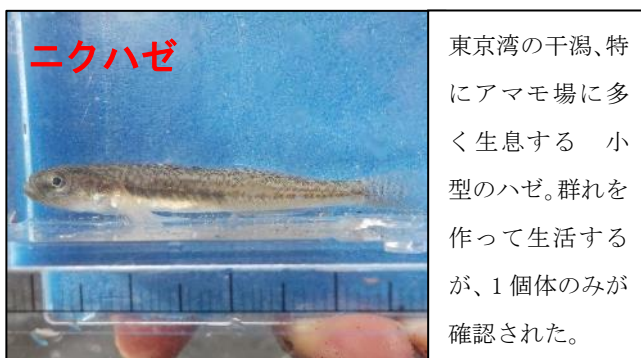
多摩川中流域で産卵孵化した稚魚が降海したものと推定される。全長は約2cm程度で、アユの稚魚は例年この時期から確認される。



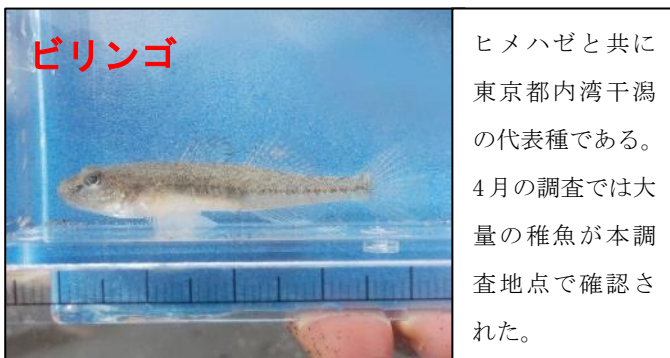
ヒメハゼは東京都内湾干潟の代表的な小型ハゼで、マハゼと違い周年を干潟で過ごす。産卵期は夏季である。



全長約2cmの稚魚が確認された。湾奥ではほとんど見られない。平成24年にお台場で1個体採取されている。



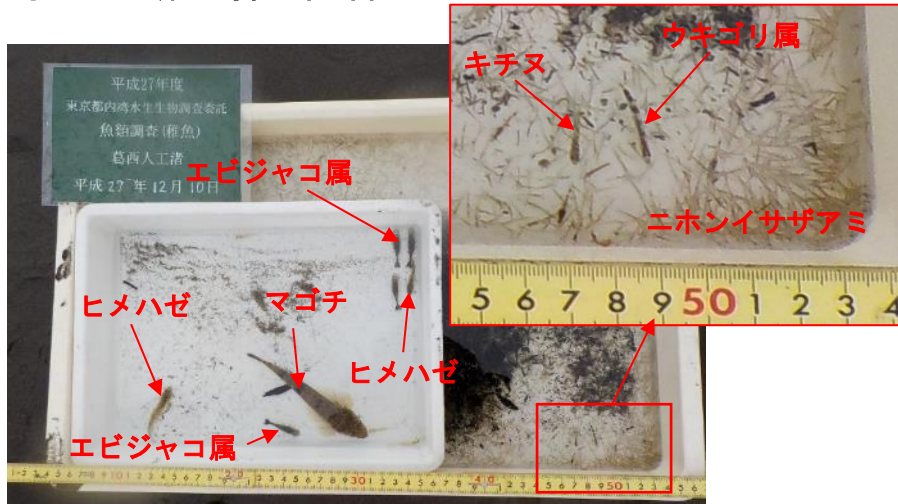
東京湾の干潟、特にアマモ場に多く生息する小型のハゼ。群れを作って生活するが、1個体のみが確認された。



ヒメハゼと共に東京都内湾干潟の代表種である。4月の調査では大量の稚魚が本調査地点で確認された。

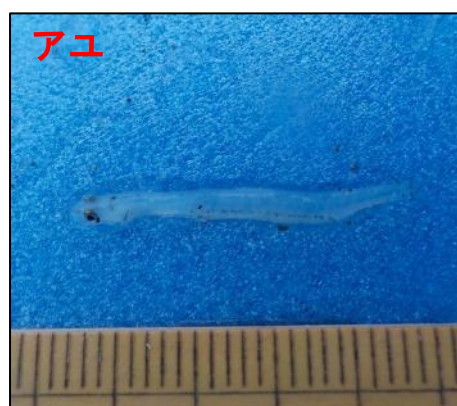


葛西人工渚 採取試料



魚類はマゴチ・ヒメハゼ・エドハゼ等が、稚魚は、城南大橋に続き、アユ・キチヌが確認されたほか、本来春季に出現するウキゴリ属が確認された。

今回調査ではイサザアミ類は前回(10月)よりさらに減少し、推定で1/40以下であった。その他、エビジャコ属・シラタエビ等が確認された。



アユ

アユの稚魚は葛西人工渚の干潟でイサザアミ類を餌として成長すると思われる、この干潟の存在は大きい。



ウキゴリ属

本来は春季(4月)に多数確認されるハゼ類。初冬に成熟し産卵を行った系群が、高水温の影響で、早期に成長したものと推定される。



マゴチ

マゴチは前回調査時とほぼ同じ全長13cm程度の個体であった。これから干潟を離れると思われる。



エドハゼ

葛西人工渚の干潟、特に潮溜まりに多く生息する小型のハゼ。東京都レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類選定種である。

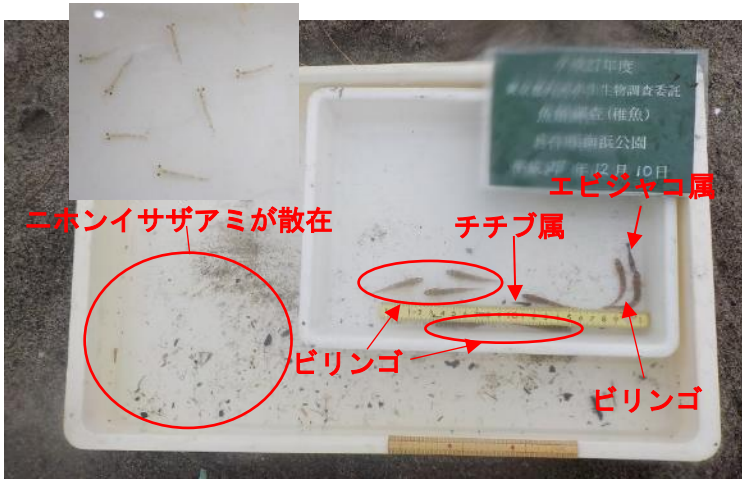


調査地点の様子



地曳網の様子

お台場海浜公園 採取試料



魚類はビリンゴとチチブ属の稚魚、その他の生物としてはニホンイサザアミ・アキアミ・シラタエビ等、主として干潟に生息する種が確認された。前回(10月)調査で50個体ほどしか確認されなかったニホンイサザアミは、今回調査では300個体以上と増加した。



ビリンゴ

ビリンゴは、本調査地点に定着していると判断される。前回調査より確認個体数が若干増加した。



チチブ属

小型のため同定が困難であるが、チチブ・ヌマチチブ・シモフリシマハゼのいずれかと推定される。



シラタエビ

今回のお台場海浜公園でのシラタエビの確認個体数は、少なく1個体のみであった。



ニホンイサザアミ

お台場海浜公園のニホンイサザアミは、前回(10月)調査より増加し、300個体以上確認された。



調査地点の様子



地曳網の様子